

主 文

本件上告を棄却する。

上告費用は上告人らの負担とする。

理 由

論旨第一点は、単なる訴訟法違背の主張に帰し（本件では乙二号証が提出されているから、所論本人訊問の申出は唯一の証拠方法とは認められない。従つて、所論中判例違反の主張は、その前提を欠くものである。）、同第二点は、単なる法令違背の主張であり（そして、原判決のこの点に関する判示は正当である。）、同第三点は、単なる訴訟法違背の主張であつて、すべて「最高裁判所における民事上告事件の審判の特例に関する法律」（昭和二五年五月四日法律一三八号）一号ないし三号のいずれにも該当せず、又同法にいわゆる「法令の解釈に関する重要な主張を含む」ものと認められない。

よつて、民訴四〇一条、九五条、八九条に従い、裁判官全員の一致で、主文のとおり判決する。

最高裁判所第一小法廷

| | | | | |
|--------|---|---|---|---|
| 裁判長裁判官 | 斎 | 藤 | 悠 | 輔 |
| 裁判官 | 岩 | 松 | 三 | 郎 |
| 裁判官 | 入 | 江 | 俊 | 郎 |